



(題字 小黒千足 学長)

第335号

(平成4年7月号)



▲ 富山地域リカレント教育推進事業として初の企画となった富山大学リカレント学習コース「ビジネスマンのための情報科学」の開講（平成4年7月20日 情報処理センター）

目 次

学 内 諸 報	関 係 法 令	25
◆ 富山大学自己点検・評価に関する 検討委員会が答申書を提出	諸 会 議	25
3	学 内 規 則	
◆ 本学低温液化室の最新情報 －「重い電子系」について－	◆ 富山大学に勤務する職員の勤務を 要しない日等に関する規則	26
4	◆ 富山大学の入学式及び学位記等授与式 の開催日についての申合せ	29
◆ 雄山閣考古学賞の特別賞に 人文学部 宇野隆夫助教授	◆ 富山地域リカレント教育推進事業富山 大学運営委員会要項	29
5	◆ 電気通信主任技術者試験の一部 免除の認定	29
◆ 本学名誉教授の会等が総会を開催	海 外 渡 航 者	31
6	職 員 消 息	32
人 事 異 動	主 要 行 事	33
7		
学 事		
◆ 平成5年度富山大学入学者選抜要項 の発表		
7		
◆ 平成4年度富山大学公開講座		
19		
◆ 平成4年度富山大学リカレント学習コース 「ビジネスマンのための情報科学」		
21		
◆ 平成4年度国際研究集会派遣研究員 の決定		
22		
寄 稿		
海外レポート		
◆ 「短期在外研究報告（ドイツ）」		
23		
－ 教育学部助教授 山下三郎 －		



答申書提出!! (自己点検評価の推進)

『富山大学における自己点検・評価の在り方について』

— 去る7月9日(木) 本学自己点検・評価に関する検討委員会 —

▲ 三寶富山大学自己点検・評価に関する検討委員会委員長から
小黒学長に答申書が提出される(平成4年7月9日(木))

平成3年12月20日(金)に設置・発足した「富山大学自己点検・評価に関する検討委員会(委員長:三寶政美 人文学部教授)は、同日小黒学長から、本学における自己点検・評価に関して、

- ① 自己点検・評価の基本方針
- ② 自己点検・評価の実施方法
- ③ 自己点検・評価の実施体制
- ④ その他自己点検・評価に関して必要な事項

以上4項目について諮問されたのを受けて、鋭意、部会、本委員会を開催し検討を重ねられました。去る4月28日(火)には、その検討結果を中間報告として取りまとめ、各教授会等広く学内に意見を徴されました。

次いで、各部局から出された意見を踏まえて中間報告の一部を修正し、「富山大学における自己点検・評価のあり方について(答申)」として取りまとめ、去る7月9日(木)三寶委員長から、小黒学長(評議会議長)に答申書が提出されました。(答申の全文は、既に配

付済みの学報号外を参照してください。)

この答申により、去る7月17日(金)開催の平成4年度第6回評議会において、その取扱いと今後の対応について審議されました。席上、同検討委員会委員の教養部奥貫教授(三寶委員長の代理)から、答申に至る経緯及びその概要について説明があり、これに対して、小黒学長から、鋭意検討・審議された同検討委員会委員各位の御労苦に謝意が表明されました。引き続き、審議の結果、本学における自己点検・評価については、答申の骨子に沿って進めることが確認・了承されました。

次いで、自己点検・評価を推進するための「富山大学自己点検評価規則(案)」が提案され、各教授会でそれぞれ検討願うことになりました。

このことにより、本学の活性化を図り、より大学の機能を高めるための「自己点検・評価」の実施に弾みがつきました。

低温液化室の最新情報

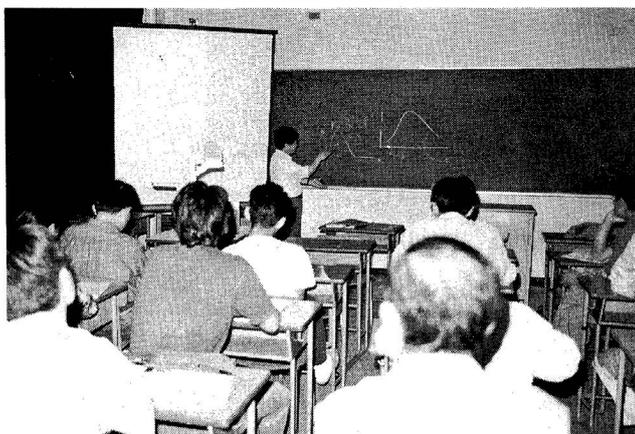
最新の実験研究

『重い電子系』について研究・講演会開催

— (講演会) 6月19日(金) 京都大学 山田耕作助教授を招へい —

本学低温液化室は、学内に低温寒剤を供給する施設であります。いうならば、学内の特別の水屋さんです。液体窒素(77k)と液体ヘリウム(4.2k)の供給がストップすれば、ある種の実験もストップしてしまいます。断水・停電と同じように、手の施しようがない。

低温液化室は、学内の水屋さんの役割だけかということ、そうではない。低温液化室を舞台に、最新の実験研究が行われています。常識では考えられない現象が低温で出現します。例えば、超伝導、超流動、重い電子系問題等々です。



▲ 「重い電子系」について講演する京都大学
山田耕作助教授(平成4年6月19日)

重い電子系というのは、セリウム元素等を含む金属性化合物で、金属電子とセリウム原子内の磁性電子とが相互作用し合い、金属電子の運動が妨げられて、低温で金属電子の質量が重くなってしまふ現象であり、物性物理の最近の中心話題の一つである。

比喩で説明を試みよう。金属が電気を通すのは、金属内に多数の電子が自由に走り回っているからである。しかし、休み時間に小学生達が運動場で走り回っている様子を想像してはいけない。電子の運動は各々異なっており、しかも2つ以上の電子が同じ運動状態になることはない。小学生達は走り回っているのだが、各々

自分の競争用トラックレーンがあり、他人のトラックには決して入れないのだ。でも、このトラックに障害物が置いてあればどうなるのだろうか？小学生達はこの障害を飛び越すことはできず、空いたトラックを探して、これに飛び移らねばならない。障害物の配置に従って、小学生達の運動は奇妙なものになる……。

残念なことに、重い電子系を物理式を用いて実際に理解しようとするのは簡単でない。用いる数字が高級・奇異で、あらゆる異なった道筋があるのだ。低温液化室で関連実験を行っている研究者でさえ、こういった理論文献を机の上で理解しようとする、くたびれてしまう。それよりも直接お話を聞くことである。そこで、去る6月19日(金)に、重い電子系の基礎理論で大きな貢献をされた理論物理学者・山田耕作先生を低温液化室でお招きし、御専門について講演していただいた。山田先生は現在、京都大学理学部物理教室に所属しておられる。

「山田先生の講演は、数学技法の詳細などにはとらわれず物理の視野を広く見渡すものであった。重い電子系の問題は、見方によっては、最近の高温超伝導酸化物の問題と共通性があり、相互作用し合う多数の電子の集団挙動の理解に新しい地平を築くものとなろうとの見通しを語られたのは、大変印象的であった。我々の質問にも親切に答えていただき、関連の研究者、学生にとって大層啓発的であった。

山田先生の講演は基礎物理の話題であった。しかし、温度現象の意味合いは広く、また、深いと思われる。熱力学の見方を拡張して、生命・社会など秩序形成過程に、新しい洞察を見いだすノーベル賞学者プリゴジンの視点もある。このような話題も、今後低温液化室の講演会で取り上げたいと考えているので、御期待を請いたいと思っています。

(低温液化室)

人文学部 宇野隆夫助教授



第1回「雄山閣考古学賞」の特別賞を受賞



考古学関係の出版社「雄山閣出版株式会社」が、創立七十五周年を記念して制定した「第一回雄山閣考古学賞」の特別賞に、人文学部助教授宇野隆夫氏（考古学）の著書「律令社会の考古学的研究 -北陸を舞台

として-」が選ばれました。

雄山閣考古学賞は、考古学とその関連の分野で、考古学の振興発展に寄与する業績を挙げた研究書を対象としたものです。

贈呈式は、去る6月27日（土）東京・神楽坂の日本出版クラブ会館で行われ、記念品と副賞が贈られました。

今回受賞の同書は、これまで北陸四県で発掘調査された律令時代の遺跡、遺物に関する研究を土台に、

『集落』『埋葬』『生産と流通』『食器』の4つの柱を設け、相互が有機的なつながりを持って変化していることを解明し、律令社会の特色を大きな視点でとらえたものです。考古学的資料の集成と分析を中心として律令社会の実像を意欲的にあとづけ、一貫して考古資料によって歴史の実態を把握する方法を展開している点で高く評価されました。

このたびの受賞に際し、同氏は、「今回の仕事は、いろいろの材料から古代北陸という地域の独特な性格と日本社会での役割を考えたものです。このような地味な地域研究に賞が与えられたのは、地域から日本社会を考えた部分が評価されたのだと思います。歴史の研究対象（考古学は歴史学の一分野です）は、一つの課題から無限に広がっていきます。今後も多くの方々と協力して仕事を進めていきたいと思っています。」と語っておられ、今後ますますの活躍が期待されます。

工学部電子情報工学科

電気通信主任技術者試験の一部免除の認定

対象 平成5年3月以降の卒業生

去る6月11日（木）、北陸電気通信監理局（金沢市）において、国家試験・電気通信主任技術者の学校認定書伝達式が行われ、田中征治局長から多々工学部長に学校認定書が授与されました。

これにより、平成5年3月以降の工学部電子情報工学科の卒業生に対し、電気通信主任技術者試験の一部（電気通信システムの試験科目）が免除されることとなりました。

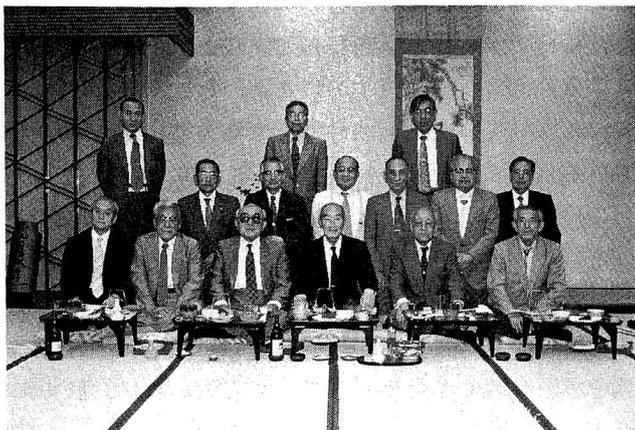


▲ 田中北陸電気通信監理局長から学校認定書の伝達を受ける多々工学部長

学内トピックス

本学職員OB会相次いで開催!!

平成4年度富山大学名誉教授の会総会（6月28日）



平成4年度富山大学名誉教授の会総会が、去る6月28日（日）午前11時から富山市内の「海老亭本館」で開催されました。

総会には、15名の名誉教授の出席があり、まず新入会員（吉岡周明、廣瀬禧七郎、楢田邦夫の3氏）が紹介され、引き続き、物故会員（井上 浩、大島文雄、倉田軍一、久保和美の4氏）の御逝去の報告がありました。

次いで、春の叙勲で受章の栄誉を受けられた植村元覚氏、岩淵富治氏に対して、祝意が表明されました。

引き続き、会務報告等が行われた後、役員選考が行われ、大島文雄先生の御逝去に伴う名誉教授の会代表に黒坂富治氏が選出されました。また、幹事及び監事も併せて改選されました。

次いで、懇親会が行われ、出席名誉教授の近況が語り合われる等して親しく懇談されました。

平成4年度富山大学温窓会総会（7月2日）



本学事務系職員のOB会「温窓会」の平成4年度総会が、去る7月2日（木）午後1時から本学職員会館で開催されました。

総会には、桜井雅楽会長外会員32名が出席され、会務報告、予算・決算等の審議が行われた後、役員改選が行われました。また、大学側から、佐竹庶務部長、渡邊庶務課長が出席し、庶務部長から本学の近況等が説明されました。

引き続き、懇親会が行われ、旧交を温められました。



人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
採 用	4. 6. 15	森 慶子		文部事務官（教養部）
	〃	柴田 紀子		事務補佐員（附属図書館）
	4. 7. 1	木地 紀子		臨時用務員（学生課作業員）
昇 任	4. 7. 1	向後 千春	講 師（教育学部）	助教授（教育学部）
	〃	堀田 幸信	文部技官（ 〃 ）	助 手（ 〃 ）
辞 職	4. 6. 27	西浦 澄子	臨時用務員（学生課作業員）	辞職を承認する
免 職	4. 6. 8	須田 雅彦	文部事務官（教養部）	国家公務員法第82条第1号及び第3号により懲戒処分として免職する

学 事

平成5年度

富山大学入学者選抜要項の発表

本学は、平成5年度入学者選抜要項を去る7月8日（水）に発表しました。昨年度との変更点及び入学者選抜要項の概要は、以下のとおりです。

昨年度との変更点

1 一般選抜について

(1) 実施方式について

経済学部「夜間主コース」：連続方式（B日程）から、分離・分割方式（前期日程・後期日程）に変更した。

(2) 日程ごとの募集人員について

- ① 経済学部「昼間主コース」、理学部及び工学部で、前期・後期日程別の募集人員を変更した。
- ② 経済学部「昼間主コース」で、新たに前期・後期日程の募集人員を定めた。

(3) 日程ごとの入学者選抜方法等について

① 前期日程

- ア 経済学部「夜間主コース」が、新規に加わった。
- イ 理学部生物学科で、新たに数学を課し、小論文を課さないことにした。

② 後期日程

- ア 教育学部情報教育課程で、新たに小論文を

課すことにした。

- イ 経済学部「昼間主コース」で、新たに外国語（英語）を課すことにした。

- ウ 経済学部「夜間主コース」が、新規に加わった。

③ 日程ごとの個別学力検査期日について

後期日程の検査期日を、平成5年3月15日（月）に変更した。（昨年は、3月14日）

教育学部（小学校・養護学校・幼稚園教員養成課程、情報教育課程）

経済学部「昼間主コース」

理学部（化学科）

（注）上記以外の後期日程の各学部学科・課程については、個別学力検査等を課さない。

〔参考〕・前期日程、A日程：平成5年2月25日（木）（昨年と同じ）

(4) 日程ごとの入学者選抜の実施教科・科目等について

① 前期日程・A日程

- ア 教育学部中学校教員養成課程で、実技検査（音楽実技）の内容の一部を変更した。
- イ 理学部化学科で、大学入試センター試験の受験を要する科目から「社会」を除き、4教科5科目に変更した。
- ウ 理学部生物学科で、新たに数学を課し、小論文を課さないことにした。

② 後期日程

- ア 教育学部情報教育課程で、新たに小論文を課すことにした。
- イ 経済学部「昼間主コース」で、大学入試センター試験の受験を要する科目を変更した。
- ウ 経済学部「昼間主コース」で、新たに外国語（英語）を課すことにした。
- エ 理学部数学科で、大学入試センター試験の受験を要する科目から「社会」を除き、4教科5科目に変更した。
- オ 理学部地球科学科で、大学入試センター試験の受験を要する科目から「国語」及び「外国語」を除き、2教科3科目に変更した。

(5) 日程ごとの大学入試センター試験及び個別学力検査の配点について

① 前期日程

- ア 経済学部「夜間主コース」が、新規に加わった。
- イ 理学部化学科及び生物学科で、配点の一部を変更した。

② 後期日程

- ア 教育学部情報教育課程で、配点の一部を変更した。
- イ 経済学部「昼間主コース」で、配点の一部を変更した。
- ウ 経済学部「夜間主コース」が、新規に加わった。
- エ 理学部数学科及び地球科学科で、配点の一部を変更した。

2 推薦入学、帰国子女・社会人特別選抜について

(1) 推薦入学

- ① 募集人員の表記を、「__名以内・__名程度」とせず、「__名」と明確にした。

② 次の学部・学科で、募集人員を変更した。

- ア 人文学科：「10名程度」から「15名」に増員。
- イ 理学部：数学科で「12名以内」から「16名」に増員。
- ウ 工学部：電子情報工学科が「19名以内」から「18名」に、機械システム工学科が「15名以内」から「13名」に減員。

(2) 社会人特別選抜

- ① 理学部化学科及び地球科学科で、新たに社会人特別選抜（若干名）を導入した。
- (3) 帰国子女特別選抜（特に変更点はない。）

3 その他

(1) 身体に障害を有する志願者との事前協議

重度の身体障害を有する志願者が、事前協議をする場合はできるだけ早期に行うよう新たに表記を加えた。

(注) 上記の「重度の身体障害を有する志願者」とは、体幹及び両上下肢の機能障害が著しい者で、大学入試センター試験で「代筆解答」の措置を申請する志願者をいう。

平成5年度富山大学入学者選抜要項（抜粋）

1. 学部、学科・課程等及び入学定員

学部	学科・課程等		入学定員	募集人員			募集人員に含まれる特別選抜の募集人員	
				前期日程	後期日程	A日程		
人文学部	人文学科		95	70	25		〔前期日程〕 推薦入学（15名） 帰国子女・社会人特別選抜（若干名）	
	文学部 文学科		110	80	30			
	計		205	150	55			
教育学部	小学校教員養成課程		100	70	30		〔A日程〕推薦入学（6名…理科、美術及び家庭の各専攻2名）	
	中学校教員養成課程		50			50		
	養護学校教員養成課程		20	14	6			
	幼稚園教員養成課程		30	21	9			
	情報教育課程		40	30	10			〔前期日程〕推薦入学（10名）
	計		240	135	55	50		
経済学部	昼間 主コース	経済学科	159	126	33		〔前期日程〕 推薦入学（30名） 帰国子女特別選抜（若干名）	
		経営学科	124	98	26			
		経営法学科	102	81	21			
		小計	385	305	80			
	夜間 主コース	経済学科	20	16	4		〔前期日程〕 推薦入学（20名） 社会人特別選抜（20名程度）	
		経営学科	20	15	5			
		経営法学科	20	15	5			
		小計	60	46	14			
	計		445	351	94			
	理学部	数学科		53	46	7		〔前期日程〕推薦入学（16名） 帰国子女特別選抜（若干名）
物理学科		47	37	10		〔前期日程〕帰国子女特別選抜（若干名）		
化学科		43	33	10		〔前期日程〕帰国子女・社会人特別選抜（若干名）		
生物学科		45	35	10		〔前期日程〕帰国子女・社会人特別選抜（若干名）		
地球科学科		32	27	5		〔前期日程〕帰国子女・社会人特別選抜（若干名）		
計		220	178	42				
工学部	電子情報工学科		132	105	27		〔前期日程〕推薦入学（18名）	
	機械システム工学科		101	80	21		〔前期日程〕推薦入学（13名）	
	物質工学科		83	66	17		〔前期日程〕推薦入学（12名）	
	化学生物工学科		86	68	18		〔前期日程〕推薦入学（12名）	
	計		402	319	83			
合計			1,512	1,133	329	50		

2. 平成5年度 富山大学入学者選抜方法等

(1) 前期日程・A日程

(2-1)

学部・学科名	選抜方法等 個別学力検査を課する	個別学力検査等						推薦入学						定員一部留保第2次募集			個別学力検査等の日程	備考							
		実技検査等			2段階選抜			入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し調査書を主な資料として判定する						入学定員の一部についてあらかじめこれを留保し、これについて第2次募集を行う											
		実技検査を課する	面接を行う	小論文を課する	主として、調査書の内容と大学入試センター試験の成績により第1段階選抜を行い、その合格者について更に必要な検査等を行う	第1段階の選抜による合格者数 定員に対する倍率 その他		個別学力検査を免除し、大学入試センター試験を課する	個別学力検査及び大学入試センター試験を免除する	実技検査等 実技検査を課する 面接を行う 小論文を課する その他				推薦入学募集人員	帰国子女、社会人等のための特別選抜 帰国子女 中国引揚者等子女 社会人	個別学力検査を課する			実技検査等 実技検査を課する 面接を行う 小論文を課する		第2次募集人員				
人文学部	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	15名	○	×	○	×	×	×	×	×			
教育学部	小学校教員養成課程	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
	養護学校教員養成課程	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
	幼稚園教員養成課程	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
	中学校教員養成課程 (国語、社会、数学、 技術、英語専攻)	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
	中学校教員養成課程 (音楽、保健体育専攻)	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
	中学校教員養成課程 (理科専攻)	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	2名	×	×	×	×	×	×	×	×		
	中学校教員養成課程 (美術専攻)	×	○	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	2名	×	×	×	×	×	×	×	×		
	中学校教員養成課程 (家庭専攻)	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	2名	×	×	×	×	×	×	×	×		
情報教育課程	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×	10名	×	×	×	×	×	×	×	×			
経済学部	1日 間 主 経済学科 経営学科 経営法学科	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	30名	○	×	×	×	×	×	×	×			
	1日 間 主 経済学科 経営学科 経営法学科	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	20名	×	×	○	×	×	×	×	×			
理学部	数学科	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	16名	○	×	×	×	×	×	×	×			
	物理学科	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×			
	化学科	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×			
	地球科学科	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×			
工学部	電子情報工学科													12名											
	機械システム工学科													6名											
	物質工学科	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	○	4名	×	×	×	×	×	×	×	×			
	化学生物工学科													8名											
													4名												
													8名												
													4名												

2月25日(木)

数学科推薦入学について
面接には、数学的思考力をみるための検査を含む。

推薦入学について
①面接には、基礎学力に関する試問を含む。
②その他として、簡単なテスト(英語及び数学)を課す。
③各学科の募集人員欄中、上段は普通科・理数科を、また、下段は専門教育を主とする学科(工業)を対象とした募集人員をそれぞれ示す。

欠員補充の方法等は、10月上旬頃に発表予定の学生募集要項に記載する。

参考 1. 調査書に④標示を希望する。(入学者選抜方法の研究資料として利用するため)
2. 個別学力検査等の日程は、教育学部中学校教員養成課程(連続方式A日程)を除き、分離・分割方式前期日程である。

(2) 後期日程 (2-2)

学部・学科名	選抜方法等	個別学力検査等							推薦入学							定員一部留保第2次募集			個別学力検査等の日程	備考			
		実技検査等			2段階選抜				入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し調査書を主な資料として判定する							入学定員の一部についてあらかじめこれを留保し、これについて第2次募集を行う							
		個別学力検査を課する	面接を行う		小論文を課する	第1段階の選抜による合格者数		推薦入学募集人員	個別学力検査を免除し、大学入試センター試験を課する	個別学力検査及び大学入試センター試験を免除する	実技検査等				帰国子女	中国引揚者等子女	社会人	個別学力検査を課する			実技検査等		第2次募集人員
			実技検査を課する	面接を行う		定員に対する倍率	その他				実技検査を課する	面接を行う	小論文を課する	その他							実技検査を課する	面接を行う	
人文学部		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	—	欠員補充の方法等は、10月上旬頃に発表予定の学生募集要項に記載する。	
教育学部	小学校教員養成課程																				3月15日(月)		
	養護学校教員養成課程	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
	幼稚園教員養成課程																						
	情報教育課程	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
経済学部	コ昼1間ス主	経済学科																			3月15日(月)		
		経営学科	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
		経営法学科																					
コ夜1間ス主	経済学科																				—		
	経営学科	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
	経営法学科																						
理学部	数学科																				—		
	物理学科	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
	生物学科																						
	地球科学科																						
	化学科	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	3月15日(月)		
工学部	電子情報工学科																				—		
	機械システム工学科	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
	物質工学科																						
	化学生物工学科																						

参考 1. 調査書に○標示を希望する。(入学者選抜方法の研究資料として利用するため)
 2. 個別学力検査等の日程は、分離・分割方式後期日程である。

3. 平成5年度 富山大学入学選抜の実施教科・科目等

(1) 前期日程・A日程

(4-1)

入学志願者に解答させる教科・科目名		選 抜 の 対 象	大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験 で 入 学 志 願 者 に 解 答 さ せ る 教 科 ・ 科 目 名	個 別 学 力 検 査 等 の 教 科 ・ 科 目 等	大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験 の 利 用 方 法	そ の 他
人文学部	人文学科	前期日程に係る一般選抜の全部	5教科5科目 国 社〔倫、日、世、地理、現社から1〕(注1) 数〔数I〕 理〔物、化、生、地学、理Iから1〕(注3) 外〔英、独、仏から1〕	国(国I、国II) 外〔英II・英IIB〕、独、朝、中、露から1)		
	語学文科学科					
教育学部	人文学科	推薦入学 (入学定員210人中15人)	3教科3科目 国 社〔倫、日、世、地理、現社から1〕(注1) 外〔英、独、仏から1〕	小論文		
	語学文科学科					
教育学部	小学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 幼稚園教員養成課程 情報教育課程	前期日程に係る一般選抜の全部	5教科6科目 国 社〔倫、日、世、地理、現社から1〕(注1) 数〔「数I」と「数II、工、簿から1」〕(注2) 理〔物、化、生、地学、理Iから1〕(注3) 外〔英、独、仏から1〕	国(国I、国II)、数(代・幾、基解)、外(英II・英IIB)から1		1. 大学入試センター試験と個別学力検査の配点は、本要項の5(10ページ)を参照すること。 なお、人文学部の推薦入学にあつては、12ページを参照すること。 2. 大学入試センター試験の「理科」については、(注4)を参照すること。
	中学校教員養成課程 (国語、社会、数学、理科、家庭、技術、英語専攻)					
	中学校教員養成課程 (音楽、美術、保健体育専攻)	推薦入学 (入学定員50人中各専攻2人)	課さない	小論文 面接 実技 面接 小論文 面接 小論文		
	中学校教員養成課程 (理科専攻)				推薦入学 (入学定員40人中10人)	
中学校教員養成課程 (美術専攻)	前期日程に係る一般選抜の全部	5教科6科目 国 社〔倫、日、世、地理、現社から1〕(注1) 数〔「数I」と「数II、工、簿から1」〕(注2) 理〔物、化、生、地学、理Iから1〕(注3) 外〔英、独、仏から1〕	数(代・幾、基解)、又は外〔英II・英IIB〕、独から1)			
中学校教員養成課程 (家庭専攻)					課さない	数(代・幾、基解)、又は外〔英II・英IIB〕、独から1)
情報教育課程	前期日程に係る一般選抜の全部	5教科6科目 国 社〔倫、日、世、地理、現社から1〕(注1) 数〔「数I」と「数II、工、簿から1」〕(注2) 理〔物、化、生、地学、理Iから1〕(注3) 外〔英、独、仏から1〕	課さない			
経済学部					昼間主コース	経済学科 経営学科 経営法学科
	夜間主コース	経済学科 経営学科 経営法学科				

注1. 「現代社会」を選択解答できる者は、高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外に限る。

注2. 「工業数理」又は「簿記会計I・簿記会計II」を選択解答できる者は、高等学校において「工業数理」又は「簿記会計I・簿記会計II」を履修した者及び文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者に限る。

注3. 「理科I」を選択解答できる者は、高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外に限る。

注4. 大学入試センター試験の「理科」について、複数科目を受験している場合は高得点の科目を利用する。

注5. 個別学力検査等の日程は、教育学部中学校教員養成課程(連続方式A日程)を除き、分離・分割方式前期日程である。

なお、推薦入学の入学定員は、当該日程の募集人員に含まれる。

(4-2)

学部(学科, 課程, 専攻等)名		入学志願者に解答させる教科・科目名	選 抜 の 対 象	大学入試センター試験で入学志願者に解答させる教科・科目名	個 別 学 力 検 査 等 の 教 科 ・ 科 目 等	大学入試センター試験の利用方法	そ の 他
経済学部	昼間主コース	経済学科 経営学科 経営法学科	推 薦 入 学 (入学定員385人中 30人)	課さない	小論文 面接		
	夜間主コース	経済学科 経営学科 経営法学科	推 薦 入 学 (入学定員 60人中 20人)				
理学部	数 学 科	前期日程に係る 一般選抜の全部		4教科5科目 国 数〔「数Ⅰ」と「数Ⅱ」〕 理〔物, 化, 生, 地学から1〕 外〔英, 独, 仏から1〕	数(代・幾, 基解, 微・積, 確・統(統計は除く。)) 数(代・幾, 基解) 理(化) 数(代・幾, 基解) 理(物, 化, 生, 地から1) 数(代・幾, 基解)又は外(英Ⅱ・英ⅡB) 理(物, 化, 生, 地から1)	1. 大学入試センター試験と個別学力検査の配点は, 本要項の5(10ページ)を参照すること。	個別学力検査実施教科・科目等の出題範囲等の詳細は, 本要項の4(8ページ)を参照すること。
	化 学 科						
	生 物 学 科						
	地 球 学 科						
	物 理 学 科						
数 学 科	推 薦 入 学 (入学定員53人中 16人)	課さない	面接(数学的思考力をみるための検査を含む。)	2. 大学入試センター試験の「理科」については, (注4)を参照すること。			
工学部	電子情報工学科 機械システム工学科	前期日程に係る 一般選抜の全部		4教科5科目 国 数〔「数Ⅰ」と「数Ⅱ, 工, 簿から1」〕(注2) 理〔物, 化, 生, 地学, 理Ⅰから1〕(注3) 外〔英, 独, 仏から1〕	数(代・幾, 基解) 理(物) 数(代・幾, 基解) 理(物, 化から1)	1. 大学入試センター試験と個別学力検査の配点は, 本要項の5(10ページ)を参照すること。 2. 大学入試センター試験の「理科」については, (注4)を参照すること。	
	物質工学科 化学生物工学科						
	電子情報工学科	推 薦 入 学 (入学定員132人中 18人)	課さない	小論文 簡単なテスト(英語及び数学) 面接(基礎学力に関する試問を含む。)			
	機械システム工学科	推 薦 入 学 (入学定員101人中 13人)					
物質工学科	推 薦 入 学 (入学定員83人中 12人)						
化学生物工学科	推 薦 入 学 (入学定員86人中 12人)						

注1. 「現代社会」を選択解答できる者は, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外に限る。
 注2. 「工業数理」又は「簿記会計Ⅰ・簿記会計Ⅱ」を選択解答できる者は, 高等学校において「工業数理」又は「簿記会計Ⅰ・簿記会計Ⅱ」を履修した者及び文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者に限る。
 注3. 「理科Ⅰ」を選択解答できる者は, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外に限る。
 注4. 大学入試センター試験の「理科」について, 複数科目を受験している場合は高得点の科目を利用する。
 注5. 個別学力検査等の日程は, 分離・分割方式前期日程である。
 なお, 推薦入学の入学定員は, 当該日程の募集人員に含まれる。

(2) 後期日程

(4-3)

学部(学科, 課程, 専攻等)名		入学志願者に解答させる教科・科目名等	選 抜 の 対 象	大学入試センター試験で入学志願者に解答させる教科・科目名	個 別 学 力 検 査 等 の 教 科 ・ 科 目 等	大学入試センター試験の利用方法	そ の 他
人文学部	人文学科		後期日程に係る一般選抜の全部	5教科5科目 国 社〔倫, 日, 世, 地理, 現社から1〕(注1) 数〔数I〕 理〔物, 化, 生, 地学, 理Iから1〕(注3) 外〔英, 独, 仏から1〕	課さない		
	語学文科学科						
教育学部	小学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 幼稚園教員養成課程		後期日程に係る一般選抜の全部	5教科6科目 国 社〔倫, 日, 世, 地理, 現社から1〕(注1) 数〔「数I」と「数II, 工, 簿から1」〕(注2) 理〔物, 化, 生, 地学, 理Iから1〕(注3) 外〔英, 独, 仏から1〕	実技(音, 美, 体から1)	1. 大学入試センター試験と個別学力検査の配点は, 本要項の5(11ページ)を参照すること。	個別学力検査実施教科・科目等の出題範囲等の詳細は, 本要項の4(8ページ)を参照すること。
	情報教育課程				小論文		
経済学部	昼間 主コース	経済学科 経営学科 経営法学科	後期日程に係る一般選抜の全部	3教科3科目 国 社〔倫, 日, 世, 地理, 現社から1〕(注1) 数〔数I〕 外〔英, 独, 仏から1〕	外(英II・英IIB) 〔英語読解力(英語の文章を出題し, その大意などを述べさせる。)]	2. 大学入試センター試験の「理科」については, (注4)を参照すること。	
	夜間 主コース	経済学科 経営学科 経営法学科			5教科6科目 国 社〔倫, 日, 世, 地理, 現社から1〕(注1) 数〔「数I」と「数II, 工, 簿から1」〕(注2) 理〔物, 化, 生, 地学, 理Iから1〕(注3) 外〔英, 独, 仏から1〕		

注1. 「現代社会」を選択解答できる者は, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外に限る。

注2. 「工業数理」又は「簿記会計I・簿記会計II」を選択解答できる者は, 高等学校において「工業数理」又は「簿記会計I・簿記会計II」を履修した者及び文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者に限る。

注3. 「理科I」を選択解答できる者は, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外に限る。

注4. 大学入試センター試験の「理科」について, 複数科目を受験している場合は高得点の科目を利用する。

注5. 個別学力検査等の日程は, 分離・分割方式後期日程である。

(4-4)

入学志願者に解答させる教科・科目名等		学部(学科, 課程, 専攻等)名	選 抜 の 対 象	大学入試センター試験で入学志願者に解答させる教科・科目名	個 別 学 力 検 査 等 の 教 科 ・ 科 目 等	大学入試センター試験の利用方法	そ の 他
理 学 部	数 学 科	後 期 日 程 に 係 る 一 般 選 抜 の 全 部	4教科5科目 国 数〔「数Ⅰ」と「数Ⅱ」〕 理〔物, 化, 生, 地学から1〕 外〔英, 独, 仏から1〕	課さない	1. 大学入試センター試験と個別学力検査の配点は, 本要項の5(11ページ)を参照すること。 2. 大学入試センター試験の「理科」については, (注4)を参照すること。	個別学力検査実施教科・科目等の出題範囲等の詳細は, 本要項の4(8ページ)を参照すること。	
	物 理 学 科		5教科6科目 国 社〔倫, 日, 世, 地理, 現社から1〕(注1) 数〔「数Ⅰ」と「数Ⅱ」〕 理〔物〕 外〔英, 独, 仏から1〕				
	化 学 科		3教科4科目 数〔「数Ⅰ」と「数Ⅱ」〕 理〔物, 化, 生, 地学から1〕 外〔英, 独, 仏から1〕	小論文(化学に関するもの)			
	生 物 学 科		4教科5科目 国 数〔「数Ⅰ」と「数Ⅱ」〕 理〔物, 化から1〕 外〔英, 独, 仏から1〕	課さない			
	地 球 科 学 科		2教科3科目 数〔「数Ⅰ」と「数Ⅱ」〕 理〔地学〕				
工 学 部	電子情報工学科 機械システム工学科 物質工学科 化学生物工学科	後 期 日 程 に 係 る 一 般 選 抜 の 全 部	4教科5科目 国 数〔「数Ⅰ」と「数Ⅱ, 工, 簿から1」〕(注2) 理〔物, 化, 生, 地学, 理Ⅰから1〕(注3) 外〔英, 独, 仏から1〕	課さない			

注1. 「現代社会」を選択解答できる者は, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外に限る。

注2. 「工業数理」又は「簿記会計Ⅰ・簿記会計Ⅱ」を選択解答できる者は, 高等学校において「工業数理」又は「簿記会計Ⅰ・簿記会計Ⅱ」を履修した者及び文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者に限る。

注3. 「理科Ⅰ」を選択解答できる者は, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外に限る。

注4. 大学入試センター試験の「理科」について, 複数科目を受験している場合は高得点の科目を利用する。

注5. 個別学力検査等の日程は, 分離・分割方式後期日程である。

4. 平成5年度 富山大学入学者選抜個別学力検査実施教科・科目

日程区分	学部(学科・課程)名		教育学部										経済学部		理学部										工学部				適用		
			小学校教員養成課程		中学校教員養成課程		中学校教員養成課程		情報教育課程		人間主コース		数学科		物理学科		化学科		生物学科		地球科学科		電子情報工学科		物質工学科						
			養護学校教員養成課程	幼稚園教員養成課程	国語, 社会, 数学, 理科, 家庭, 技術, 英語専攻	音楽, 美術, 保健体育専攻	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数			
前期・A日程	国語	国語 I	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同一試験時間内に解答させる。		
		国語 II	◎		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	数学	代数・幾何基礎解析			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		同一試験時間内に解答させる。	
		代数・幾何基礎解析			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
		微分・積分																													
		確率・統計																													
	理科	物理																												同一試験時間内に解答させる。「確率・統計」のうち統計は除く。	
		化学																													
		生物学																													
		地学																													
	外国語	英語 II	○	英語は2その他は1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		同一試験時間内に解答させる。	
		英語 II B	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
		ドイツ語	○																												
		朝鮮語	○																												
		中国語	○																												
ロシア語		○																													
芸術	音楽実技							◎	1																						
	美術実技							◎																							
保健体育	体育実技						◎																								
合計		8	4又は3	6	2	6	2	1	1	6	2	5	2又は1	6	6	3	3	3	3	6	3	8	3	3	3	4	3				
後期日程	外国語	英語 II											◎	2													同一試験時間内に解答させる。				
		英語 II B																													
	芸術	音楽実技			○																										
		美術実技			○	1																									
	保健体育	体育実技			○																										
小論文									◎	1								◎	1												
合計				3	1					1	1	2	2					1	1												

備考 1. ◎は必ず受験しなければならない科目を, ○は選択科目を示す。
 2. 教育学部の実技検査の内容については, 本要項の9ページを参照のこと。
 3. 経済学部「夜間主コース」については, 個別学力検査を課さない。

5. 大学入試センター試験及び個別学力検査の配点

(1) 前期日程・A日程

日 区 程 分	教科等		区 分	国語	社会	数学	理科	外国語	実技 検査	小論文	小計	合計	
	学部(学科・課程)												
前 期 日 程 A 日 程	人 文 学 部		大学入試センター試験	100	100	100	100	100			500	900	
			個別学力検査	200	—	—	—	200	—	—	400		
	教 育	小学校教員養成課程		大学入試センター試験	200	100	200	100	200			800	1,000
		養護学校教員養成課程		個別学力検査	(200)	—	(200)	—	(200)	—	—	200	
		幼稚園教員養成課程 情報教育課程											
	学 部	中学校教員養成課程 〔国語, 社会, 数学, 理科 家庭, 技術, 英語専攻〕		大学入試センター試験	200	100	200	100	200			800	1,200
				個別学力検査	(400)	—	(400)	—	(400)	—	—	400	
		中学校教員養成課程 (音楽, 美術, 保健体育専攻)		大学入試センター試験	200	100	200	100	200			800	1,200
			個別学力検査	—	—	—	—	—	400	—	400		
	前 期 日 程	経 済 学 部	コ 昼 間 主 ス	経済学科	大学入試センター試験	100	50	100	50	100		400	700
経営学科				個別学力検査	—	—	(300)	—	(300)	—	—	300	
経営法学科			個別学力検査	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
コ 夜 間 主 ス		経済学科	大学入試センター試験	200	100	200	100	200			800	800	
		経営学科	個別学力検査	—	—	—	—	—	—	—	—		
		経営法学科	個別学力検査	—	—	—	—	—	—	—	—		
理 学 部		数 学 科		大学入試センター試験	100	—	100	100	200			500	1,000
				個別学力検査	—	—	500	—	—	—	—	500	
		物 理 学 科		大学入試センター試験	200	100	200	100	200			800	1,400
				個別学力検査	—	—	200	400	—	—	—	600	
	化 学 科		大学入試センター試験	200	—	200	100	200			700	1,100	
			個別学力検査	—	—	200	200	—	—	—	400		
生 物 学 科		大学入試センター試験	200	—	200	100	200			700	1,200		
		個別学力検査	—	—	200	300	—	—	—	500			
地 球 学 科		大学入試センター試験	100	—	200	100	200			600	1,000		
		個別学力検査	—	—	(200)	200	(200)	—	—	400			
工 学 部		大学入試センター試験	100	—	100	100	100			400	800		
		個別学力検査	—	—	200	200	—	—	—	400			

(注) 1. 配点の()は、選択教科を示す。
 2. 理学部数学科の個別学力検査「数学」の配点は、「代数・幾何, 基礎解析」200点と「代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計(統計は除く。)」300点とで合計500点である。

(2) 後期日程

日 区 程 分	教科等		区 分	国語	社会	数学	理科	外国語	実技 検査	小論文	小計	合計	
	学部(学科・課程)												
後 期 学 部	人 文 学 部		大学入試センター試験 個別学力検査	100 —	100 —	100 —	100 —	100 —	— —	— —	500 —	500	
	教 育 学	小学校教員養成課程	大学入試センター試験	200	200	200	200	200	—	—	1,000	1,200	
		養護学校教員養成課程	個別学力検査	—	—	—	—	—	200	—	200		
		幼稚園教員養成課程	個別学力検査	—	—	—	—	—	—	—	—		
	部	情報教育課程		大学入試センター試験 個別学力検査	200 —	200 —	200 —	200 —	200 —	— —	400 400	1,000 400	1,400
		経 済 学	昼間 主 コ ー ス	経済学科	大学入試センター試験	200	(100)	(100)	—	200	—	—	500
	経営学科			個別学力検査	—	—	—	—	100	—	—	100	
	経営法学科		個別学力検査	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	部	夜間 主 コ ー ス	経済学科	大学入試センター試験	200	100	200	100	200	—	—	800	800
			経営法学科	個別学力検査	—	—	—	—	—	—	—	—	
日 程	数 学 科		大学入試センター試験 個別学力検査	200 —	—	200 —	100 —	200 —	— —	— —	700 —	700	
	理 学	物 理 学 科	大学入試センター試験	200	100	400	200	200	—	—	1,100	1,100	
			個別学力検査	—	—	—	—	—	—	—	—		
	部	化 学 科	大学入試センター試験	—	—	200	200	200	—	—	600	1,000	
			個別学力検査	—	—	—	—	—	—	400	400		
			大学入試センター試験	200	—	200	200	200	—	—	800		800
個別学力検査	—	—	—	—	—	—	—	—					
部	地 球 学 科	大学入試センター試験	—	—	100	400	—	—	—	500	500		
		個別学力検査	—	—	—	—	—	—	—	—			
工 学 部		大学入試センター試験 個別学力検査	100 —	— —	300 —	300 —	100 —	— —	— —	— —	800 —	800	

(注) 配点の()は、選択教科を示す。

6. 特別選抜方法
 7. 身体に障害を有する志願者との事前協議
 8. 私費外国人留学生選抜の概要
 9. 学生募集要項（細目）の発表
 10. 学生募集要項の請求方法
 11. 大学案内の請求方法

(省略)

以 上

平成4年度 富山大学公開講座

平成4年度本学における公開講座は、次のとおり教養講座2講座及びスポーツ講座1講座（3コース）が実施されます。

1. 「環日本海時代を考える」

（趣 旨） ソ連崩壊に至る最近の国際情勢の激しい変化のなかで、我が国では日本海沿岸諸国との関係が一層重要度を増している。

富山においても、沿岸地域との交流への期待が非常に高まっている。こうした現実を踏まえ、沿岸諸国、地域の政治、経済、歴史、文化、自然等様々な分野の問題について考える。

（開 設 期 間） 平成4年9月26日（土）～11月7日（土）

（開設日数・時間帯） 6日間 毎週土曜日 13時～17時30分

（募 集 人 員） 75名

（会 場） 富山大学黒田講堂

（受 講 料） 6,480円（今年度は、受講生に対し受講料の全額が、(財)富山県高等教育振興財団から助成されます。）

（受 講 内 容）

回数	期 日	講 座 題 目	講 師 氏 名	所 属 ・ 職 名
1	9月26日(土)	環日本海時代と国際交流	中 藤 康 俊	経 済 学 部 教 授
		北方領土の問題	鹿 島 正 裕	金沢大学法学部教授
2	10月3日(土)	中国の地方演劇文化について	磯 部 彰	人文学部助教授
		ロシアはどこへ?	藤 井 一 行	人文学部教授
3	10月17日(土)	極東・シベリアの近代史	吉 田 俊 則	教 養 部 助 教 授
		日本人と韓国・朝鮮人 -相互交流とこれからの課題-	飯 田 剛 史	経 済 学 部 教 授
4	10月24日(土)	朝鮮の文字文化と日本	藤 本 幸 夫	人文学部教授
		ロシアの再生可能性について	森 岡 裕	経 済 学 部 助 教 授
5	10月31日(土)	日本海とその周辺自然	藤 井 昭 二	教 養 部 教 授
		雪水を中心にした北方圏の問題	對 馬 勝 年	理 学 部 教 授
6	11月7日(土)	環日本海の淡水魚	田 中 晋	教 育 学 部 教 授
		日本海の成因を中心にしたバイカル湖を含む極東の断裂系	竹 内 彰	教 養 部 助 教 授

- （備 考） ① 本講座は県民カレッジと連携しています。
 ② 本講座の修了者は希望により、県民カレッジの単位が認定されます。

2. 「情報空間体験講座 -遊びから創造へ-」

(趣 旨) 情報技術のめざましい進歩は、私たちの日常生活から社会や文化まで様々な形で影響を及ぼしてきています。本講座では、これらの情報技術を「コンピュータと電子出版」、「コンピュータグラフィックス」、「コンピュータと音楽」、「コンピュータと制御」、「ハイパーメディア」等に分け、体験的学習を通して最新の技術の一端を知ってもらうと同時に、これらを活用した望ましい情報化社会の在り方について考える。

(開 設 期 間) 平成4年8月10日(月)～8月31日(月)の下記日程の8日間

(日程・開講時間)

月日 講座名	8/10(月)	8/17(月)	8/19(水)	8/21(金)	8/24(月)	8/26(水)	8/28(金)	8/31(月)
情報空間 体験講座	18:00～ 20:30 2時間30分							

(受 講 対 象 者) 市民一般(コンピュータに関する予備知識はなくても可)

(募 集 人 員) 20名

(会 場) 富山大学教育学部附属教育実践研究指導センター

(講 師) 教育学部教授 山西 潤一、教育学部教授 穴山 彊、教育学部助教授 大森 克史、
教育学部助教授 吉田 雅巳、教育学助教授 向後 千春

(受 講 料) 5,560円(今年度は、受講生に対し受講料の全額が、(財)富山県高等教育振興財団から助成されます。)

(備 考) ① 本講座は県民カレッジと連携しています。
② 本講座の修了者は希望により、県民カレッジの単位が認定されます。

3. 健康・スポーツ教室

(趣 旨) 市民の健康・スポーツに対する関心を高め普及するため、硬式テニス、ジョギング・ランニングを選んで、それぞれ専門的な理論、実技の指導を行う。

(開設コース・募集人員・受講対象者)

開 設 コ ー ス	募 集 人 員	受 講 対 象 者
硬 式 テ ニ ス コ ー ス	30 名	初心者男女
	20 名	初級者男女
ジ ョ ギ ン グ ・ ラ ン ニ ン グ コ ー ス	20 名	市民一般

※ 初心者：初めてラケットを持つ人
初級者：ダブルスのゲームが少しできる程度の人

(開 設 期 間)

- ・硬式テニスコース 平成4年8月25日(火)～8月31日(月)の下記日程の7日間(初心者コース)
平成4年12月21日(月)～12月25日(金)の下記日程の5日間(初級者コース)
- ・ジョギング・ランニングコース 平成4年8月17日(月)～9月5日(土)の下記日程の9日間

(日程・開講時間)

月日	8/25(火)	8/26(水)	8/27(木)	8/28(金)	8/29(土)	8/30(日)	8/31(月)
コース							
硬式テニス 初心者コース	18:00 ~20:00 2時間						

月日	12/21(月)	12/22(火)	12/23(水)	12/24(木)	12/25(金)
コース					
硬式テニス 初級者コース	18:00 ~21:00 3時間	18:00 ~21:00 3時間	18:00 ~21:00 3時間	18:00 ~21:00 3時間	18:00 ~21:00 3時間

月日	8/17(月)	8/19(水)	8/21(金)	8/24(月)	8/26(水)	8/28(金)	8/31(月)	9/3(木)	9/5(土)
コース									
ジョギング・ ランニングコース	18:00 ~20:00 2時間	16:00 ~20:00 4時間							

- (会 場) ・硬式テニスコース 富山大学軟式テニスコート
富山大学第1体育館
- ・ジョギング・ランニングコース 空港スポーツ緑地陸上競技場他
- (受 講 料) ・硬式テニスコース 4,630円
- ・ジョギング・ランニングコース 5,560円

(講 座 内 容)

【硬式テニスコース】 講師：教養部助教授 北村 潔 和、教養部講師 鳥海 清 司
テニスの基本技術とダブルゲームのしかた。

【ジョギング・ランニングコース】 講師：教育学部教授 山 地 啓 司

生涯スポーツとしてのジョギング・ランニングの特色を理解させ、健康や体力の維持増進のための安全で楽しいジョギング・ランニングを創る具体的方法について実践指導する。

- (備 考) ① 本講座は県民カレッジと連携しています。
- ② 本講座の修了者は希望により、県民カレッジの単位が認定されます。

富山地域リカレント教育推進事業

平成4年度 富山大学リカレント学習コース
『ビジネスマンのための情報科学』

趣 旨

富山大学では、社会人・職業人を対象としたハイレベルの学習講座「ビジネスマンのための情報科学」を開講します。

この講座は、今日の産業構造や就業構造などの急激な変化や急速な技術革新に対応するため、高度で実践的な学習の機会が求められており、このような社会的なニーズに応えるため、本学の施設と教職員により学習の機会を提供するものです。

リカレント（RECURRENT）は『回帰』を意味します。「リカレント学習」は、既に学校教育を終えられて社会で活躍されている社会人・職業人が最新の知識や高度な技術の習得を求め、旺盛な学習意欲に燃えて、再び教育の場に戻って学習されることを意味します。

なお、この学習コースは、文部省から富山地域リカレント教育推進協議会が委嘱を受け実施されるものです。

学習コースの内容

今日の職場においては、コンピューターを抜きにして業務の成立は考えられません。本コースでは、先ず通常の業務に必要な報告書や資料作成の基本について学習を行い、次いで、大型コンピューターを用いてデータベースの利用や、経営管理を科学的に考える統計・予測・数理計画等の高度な手法を実習を通して習得します。

開設期間

平成4年7月20日（月）～7月24日（金）の5日間

会場

富山大学情報処理センター

募集人員

20人

受講料

10,000円（なお、実費として教材費1,000円程度徴収します。）

学習コース日程

回	日 時	講 義 テ ー マ	講師（職・氏名）	時間数
1	7. 20（月） 10：00～12：00 13：00～17：00	ビジネスマンのための コンピューター入門 －大型コンピューターの使用方法－	工学部教授 山淵 龍夫	講義 2
			経済学部助手 上木 佐季子 般若 裕子	実習 4
2	7. 21（火） 10：00～12：00 13：00～17：00	パーソナル・コンピューター による経営資料の作成 －ロータス1－2－3， dBASEⅢ，一太郎－	工学部教授 山淵 龍夫	講義 2
			経済学部助手 上木 佐季子 般若 裕子	実習 4
3	7. 22（水） 10：00～12：00 13：00～17：00	戦略的OAツールとしての スケジューリング・システム －パソコンによるスケジューリング・ システムの作成－	経済学部助教授 太田 雅晴	講義 2
			経済学部助手 上木 佐季子 般若 裕子	実習 4
4	7. 23（木） 10：00～12：00 13：00～17：00	経済学におけるファジィ理論 数理計画／プロジェクト管理 －LP，PERT／CPM－	経済学部教授 中島 信之	講義 2
			経済学部助手 上木 佐季子 般若 裕子	実習 4
5	7. 24（金） 10：00～12：00 13：00～17：00	対話型データベースの使用法 －SQL／DSとISQL－	工学部助手 高井 正三	講義 2
			経済学部助手 上木 佐季子 般若 裕子	実習 4
計	5 回			計30時間

そ の 他

所定の時間を受講した場合は、修了証書を交付します。

平成4年度 国際研究集会派遣研究員の決定

部局名	職名	氏名	研究集会名	開催期間	開催地
理学部	助教授	東川和夫	複素解析に関する研究集会	平成 4. 10. 5) 4. 10. 16	ワルシャワ (ポーランド)

寄稿 海外レポート

短期在外研究報告（ドイツ）

教育学部助教授 山下三郎

平成3年度文部省短期在外研究員として、ドイツのルードヴィッヒスブルグ教育大学を中心に研修を行ってきた。目的は、旧東ドイツのライプツィヒ体育大学のマイネルとシュナーベル教授によって提唱された動作学が、西欧諸国の大学、とりわけ旧西ドイツの大学でどのように扱われ発展させているか、また、東西ドイツが統合して以来、西ドイツの体育科教育の事情がどのように変化したかなどに関する情報収集ということにあった。

私がルードヴィッヒスブルグ教育大学を選んだ理由は、私の所属する富山大学教育学部から、毎年公費留学生を送っているの、学生を通してあらかじめこの教育大学の情報を得ていたこと、外国人留学生担当のシュトラオホ教授にお会いしたいこと、などの事情もあった。

東西ドイツ統合は、動作学研究にもかなりの影響を及ぼしたというのが実態であった。

まず、大学都市であるチュービンゲンの大きな書店で、動作学研究に関する文献を探したが見つかることはできなかったこと、書店の主人に聞いたところライプツィヒの書店にも書架には並んでいないだろうとのことであったが実際そのとおりであった。

元来、動作学はその意味論を中心に、運動学習を人間の基本的な能力である協応能といわれる神経系メカニズム向上の学習として位置付けされてきた。したがって、その研究は、運動学習に関連するひとの内部メカニズムやその発達論、また、内部メカニズムに目を向けながら指導する方法論などを内容とするものであった。

動作学習やスポーツ指導の具体的方法は、あらかじめ巨視的8つのメルクマールを設定し、それによって指導するというものであったが、この成果はスポーツの世界で、旧東ドイツが数多くの国際大会上位入賞を果たすなどで実証されているかにみえた。そのため、近年西欧諸国のスポーツ指導の研究にもかなりの影響を及ぼした事実があるだけに、今回の発見は意外であった。トレーニング方法やスポーツ教育の方法論として発展的に新しく位置付け直されてはいるが、元来のマ

イネル博士らによるひとの運動の本質論的追求を内容とする研究が、方法論的研究に変革されたという見方をすることができると思うことができる。

次には、旧西ドイツにおける大学の研究者で、過去にこれを学んだことのあるという研究者にはかなり多く出会ったが、最近ではほとんどこの領域の研究を専門分野とする研究者が、少なくなったということである。この傾向は、旧東ドイツのライプツィヒやマクデブルクの大学を訪問した際にも、同様の気配であった。



▲ ルードヴィッヒスブルグ教育大学の体育の授業風景

ルードヴィッヒスブルグ教育大学では多くの情報を得ることができた。一昨年までは、当該大学教官によって実施されていた動作学研究や授業は、旧東ドイツの研究者を招いての集中講義に切り替えられてはいたが、実際の授業や研究の実態は、従来、動作学と最も関連が深いとされている体操・ダンス、機械運動の領域にとどまらず、球技の指導においてさえも、今でもなお、動作学的方法による実践が採られている、という事実があった。体育教育即シュポルツ教育という理念上の変化があるにもかかわらず、単に形式的なスポーツ指導に偏することなく、学習者の心理的発達や神経的発達に対応するきめの細かい授業方法の研究が旺盛に行われているようであった。とりわけ、ライプホルドン教授の体操・ダンスの研究は、極めて示唆に富んだ情報を提供してくれた。今日、我が国においてエア

ロビクスダンス教室など、体操教育が学校を離れ、スポーツ産業にゆだねられ興隆を示すにつけ、ややもすると、学校教育における体操教材のかけがえが薄れつつあるようにみえる現実を、何とか打開させるための研究が要請されているが、ライブレポルドン教授の研究は、この要請に十分応えてくれる内容を包含するものであった。アーノルド教授は、球技領域全般を授業や研究の領域とするものであったが、教員養成学部における体育科教育を担当する私にとって、広範にわたる教材に共通する特性と、その教授内容を特定する研究方法の示唆を受けることができた。

また、メッツガー教授の教育実習（教授が学生とともに附属学校に出向き、直接学生指導をする。）は、教育実習改善研究を一研究領域とする私にとって、大変よい情報を得ることになった。大学の時間割に組み込まれている週一回の教育実習は、集中で行う場合と違って長期にわたるため、学生の関心がたえず教育現場にあるという利点もあり、教師になるためのパーソナリティを醸成するためにも、極めて適切なのではないかと考えさせられた。

主任教授のシュレスケ教授は、細かい心遣いで私に接してくれたが、彼のスポーツにおける精神論の研究は、極めて東洋的で、西洋スポーツのなかに、柔道、剣道、合気道などの精神論を位置付けようとする研究だけに、我が国の新学習指導要領のなかで、格技が武道に名称変えたこと、また、一般にも宮本武蔵の著した「五輪の書」などが多く読まれるようになった昨今、学校教育におけるこの分野を通して、我が国特有の文化の見直しが必要であると痛感させられた。



▲ シュツットガルトのシュロス・プラッツ
（ルードヴィッヒスブルグは、シュツットガルトの衛生都市）

また、ルードヴィッヒスブルグでは、グルンドシュレー（4年制）とギムナジウム（9年制）の授業を参観することができたが、ギムナジウムでは案内してくれた教頭が、ドイツでは、本来学級定員は26人のところ自分の学校では、1学級30名編成に圧縮して実施しているとのことだった。日本の学校では、最近40人定員になったと言うと、気の毒そうに「それじゃきめ細かい教育はできないですね」という応えが返ってきた。

ギムナジウムの卒業試験は、ドイツ国内いずれの大学へも入学できる資格（しかも無償で）試験でもあるので、かなり程度の高い内容とのことであったが、平素の授業そのものの程度はあまり高いとは見受けられず、また、宿題という習慣はないとのこと、子供達の伸び伸びしているのが印象的だった。学校は、7時40分始業で日本の学校よりも早い（その替わり帰りは早い）、これは一般企業でも同様のようで、サマータイムで時計を1時間早くさせたにもかかわらず、私の滞在した家の前の会社は、始業時間が7時のようであった。

シュツットガルトからミュンヘンに向かう列車の窓から見るガイスリンゲンという町があまりにも美しいので、日曜日に訪ねてみた。駅前が公園通りとなっていたのでしばらく歩き、それらしいところに入ると、そこはギムナジウムだった。まさに公園の中にある学校といった感じだった。町の公園は、道路を挟んで向かい側だったが、日本の三大公園を思わせるような公園だった。また、町外れの丘から見下ろした町並みは、まるで童話の中の世界のように美しかった。

一斉に花開く5月の南ドイツは、ちょっと郊外に出ると、限りなく続く丘陵が言葉では言い表しようがないまでに美しく、約2カ月ではあったが、私にとって実りの多い快適な在外研究であった。

筆者は、平成3年度文部省在外研究員（短期）として、平成4年3月27日から同年5月17日までの間、「西欧諸国の動作学（Bewegungslehre）の研究——特に小学校における体育と合科学習への影響を通して——」を研究テーマとして、ドイツ、連合王国、フランス及びオーストリアへ外国出張されました。

関 係 法 令

(政 令)

- 旅券法施行令等の一部を改正する政令
(207) 6. 17
- 国立学校設置法施行令の一部を改正す
る政令(216) 6. 26
- 国立学校特別会計法施行令の一部を改
正する政令(225) 6. 26

(省 令)

- 国立学校設置法施行規則の一部を改正
する省令(文部25) 6. 26

- 国立学校財務センター組織運営規則
(同26) 6. 26
- 教育公務員特例法施行令第3条の2の
規定に基づく文部省所轄機関等の長等
の選考の手続及び任期等を定める手続
に関する省令の一部を改正する省令
(同27) 6. 26
- 奨学寄附金委任経理事務取扱規則の一
部を改正する省令(同28) 6. 26

諸 会 議

平成4年度第1回国際交流委員会(6月8日)

(審議事項)

- (1) 平成4年度富山大学国際交流事業基金各種事業
の採択について
- (2) 平成4年度富山大学国際交流後援会事業(外国
人留学生への宿舍費補助)の選考について
- (3) 国際交流センターの概算要求について
- (4) 日本国富山大学と中華人民共和国遼寧大学との
間における教官及び研究者の学术交流に関する実
施細目(案)について
- (5) その他

平成4年度第1回学園ニュース編集委員会(6月8日)

(審議事項)

- (1) 第77号学園ニュースの発行について
- (2) その他

平成4年度第4回評議会(臨時)(6月9日)

(審議事項)

- (1) 平成5年度概算要求(案)について
- (2) その他

平成4年度第2回事務協議会(6月17日)

(議題)

- (1) 当面の諸問題について

平成4年度第2回入学試験実施委員会(6月23日)

(審議事項)

- (1) 平成5年度富山大学入学試験実施委員会専門委
員会委員について
- (2) 平成5年度富山大学入学者選抜に関する要項
(案)について
- (3) 平成4年度富山大学と高等学校との入学試験に
関する懇談会実施計画(案)について
- (4) 平成4年度富山大学説明会実施計画(案)につ
いて

平成4年度第2回入学試験委員会(6月23日)

(審議事項)

- (1) 平成5年度富山大学入学者選抜に関する要項
(案)について
- (2) 平成4年度富山大学と高等学校との入学試験に
関する懇談会実施計画(案)について
- (3) 平成4年度富山大学説明会実施計画(案)につ
いて

平成4年度第5回評議会(6月26日)

(審議事項)

- (1) 富山大学の入学式及び学位記等授与式の開催日
について
- (2) 学生の除籍について
- (3) その他

- 平成4年度第1回廃液処理施設運営委員会（6月29日）
（議題）
- (1) 平成3年度運営費決算について
- (2) 施設長の推薦について
- (3) 実験廃棄物の取扱に関する講習会について
- (4) その他

学 内 規 則

富山大学に勤務する職員の勤務を要しない日等に関する規則の制定

富山大学に勤務する職員の勤務を要しない日等に関する規則の制定理由

行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）の一部改正、行政機関の休日において事務の全部又は一部を行う官署を定める訓令（平成4年文部省訓令第14号）及び文部省に勤務する職員の勤務時間等に関する規程（平成4年文部省訓令第15号）の制定に伴い、富山大学に勤務する職員の勤務を要しない日等を定める。

富山大学に勤務する職員の勤務を要しない日等に関する規則

（趣 旨）

第1条 富山大学に勤務する職員（以下「職員」という。）の勤務を要しない日、勤務時間、休憩時間及び休息時間については、一般職の職員の給与等に関する法律、人事院規則15-1（職員の勤務時間等の基準）、文部省に勤務する職員の勤務時間等に関する規程（平成4年文部省訓令第15号）等（以下「法令等」という。）の定めによるほか、この規則の定めるところによる。

（定 義）

第2条 この規則において「部局長」とは、事務局、学生部、各学部、教養部、附属図書館、水素同位体機能研究センター、地域共同研究センター及び保健管理センターの長をいう。

（勤務を要しない日及び勤務時間の割振り等）

第3条 職員の勤務を要しない日は日曜日及び土曜日とし、勤務時間、休憩時間及び休息時間（以下「勤務時間の割振り等」という。）は、別表1に定めるところによる。ただし、別表2の職員の区分欄に掲げる職員については、同表に定める勤務時間の割振

り等とする。

第4条 別表3の職員の区分欄に掲げる職員の勤務を要しない日及び勤務時間の割振り等については、同表に定めるところによるものとし、勤務を要しない日及び勤務時間の割振りを定める期間（以下「割振り単位期間」という。）ごとに、当該部局長が勤務を要しない日及び勤務時間帯の指定を行うものとする。

第5条 前2条の規定によることが困難な職員については、法令等に定める範囲内において、あらかじめ勤務を要しない日及び勤務時間の割振り等の基準について学長の承認を得た場合に限り、当該部局長が勤務を要しない日及び勤務時間帯の指定を行うことができるものとする。

第6条 第3条又は第4条の適用を受ける教授、助教授、講師（非常勤講師を除く。）、助手、教諭及び養護教諭のうち、教育、研究及び学生指導等のため、第3条又は第4条の規定によることが困難な者については、法令等に定める範囲内において、当該部局長が個別に勤務を要しない日及び勤務時間の割振り

等の指定を行うことができるものとする。

- 2 前項の規定により勤務を要しない日及び勤務時間の割振り等を行う場合には、第3条の適用を受けている者については平成4年5月3日を初日とする4週間の期間及びこれに引き続く4週間ごとの期間のうちの特定の4週間内において、第4条の適用を受けている者については、当該割振り単位期間のうちの特定の4週間内において行うものとする。

(勤務を要しない日の振替え等)

- 第7条 一般職の職員の給与等に関する法律(昭和25年法律第95号)第14条第4項に規定する勤務を要しない日の振替え又は半日勤務時間の割振り変更については、当該部局長がこれを行うものとする。ただし、勤務を要しない日の振替え又は半日勤務時間の割振り変更を行う際には、人事院規則15-1(職員の勤務時間等の基準)の運用について(昭和63年12月15日)第7条関係第6項に定める事項を当該職員へ通知するものとする。

(割振り単位期間の初日等)

- 第8条 第4条及び第5条の割振り単位期間の初日は、平成4年5月3日とする。

- 第9条 人事院規則15-1(職員の勤務時間等の基準)第7条第4項に規定する毎4週間は、平成4年5月3日を初日とする4週間の期間及びこれに引き続く4週間ごとの期間とする。

附 則

- この規則は、平成4年5月1日から施行する。
- 平成4年8月31日までの間は、別表3の勤務を要しない日欄中「日曜日並びに毎月の第二土曜日」とあるのは、「日曜日」とし、「当該部局長が指定する2の土曜日」とあるのは、「当該部局長が指定する3つの土曜日」とする。
- 富山大学職員の勤務時間、休憩時間及び休息時間等に関する取扱いについて(昭和42年11月28日学長裁定)は、廃止する。

別表1

勤務時間	休憩時間	休息時間
午前8時30分 ～午後5時	午後0時15分 ～午後0時45分	午後0時～午後0時15分 午後0時45分～午後1時

別表2

職員の区分	勤務時間	休憩時間	休息時間
各学部及び教養部に勤務する職員のうち、教育、研究及び学生指導等の業務に従事する職員(教育学部附属学校教員を除く。)で当該部局長が指定する者	午前8時30分～午後5時	午後0時30分～午後1時	午前10時30分～午前10時45分 又は午後0時15分～午後0時30分 午後1時～午後1時15分
経済学部夜間主コースの授業等に関連する業務に従事する職員(教員を除く。)で当該部局長が指定する者	午後0時30分～午後9時	午後4時30分～午後5時	午後4時15分～午後4時30分 午後5時～午後5時15分
保健管理センターに勤務する職員のうち、看護・救急医療措置に関する業務に従事する職員で当該部局長が指定する者	A 午前8時30分～午後5時	午後0時30分～午後1時	午後0時15分～午後0時30分 午後1時～午後1時15分
	B 午前9時～午後5時30分	午後1時～午後1時30分	午後0時45分～午後1時 午後1時30分～午後1時45分
事務局に勤務する職員のうち、電話交換に関する業務に従事する職員で当該部局長が指定する者	A 午前8時30分～午後5時	午後0時15分～午後0時45分	午前10時15分～午前10時30分 午後2時45分～午後3時
	B 午前9時～午後5時30分	午後1時15分～午後1時45分	午前11時～午前11時15分 午後3時30分～午後3時45分

別表3

職員の区分	割振り 単位期間	勤務を要しない日	勤務時間	休憩時間	休息時間
教育学部附属小学校 の教員	52週間	日曜日並びに毎月の 第二土曜日及び夏季 ・冬季等の休業期間 中に当該部局長が指 定する10日以上の一 勤務日	月曜日から金曜日まで 午前8時30分 ～ 午後5時	午後1時 ～ 午後1時30分	午前10時35分～午前10時50分 午後3時50分～午後4時5分
			土曜日 午前8時30分 ～ 午後0時30分		午前10時35分～午前10時50分
教育学部附属中学校 の教員	52週間	日曜日並びに毎月の 第二土曜日及び夏季 ・冬季等の休業期間 中に当該部局長が指 定する10日以上の一 勤務日	月曜日から金曜日まで 午前8時30分 ～ 午後5時	午後0時 ～ 午後0時30分	午前9時55分～午前10時 午前11時50分～午後0時 午後3時30分～午後3時45分
			土曜日 午前8時30分 ～ 午後0時30分		午前9時55分～午前10時 午前11時50分～午後0時
教育学部附属養護学 校の教員	52週間	日曜日並びに毎月の 第二土曜日及び夏季 ・冬季等の休業期間 中に当該部局長が指 定する10日以上の一 勤務日	月曜日から金曜日まで 午前8時30分 ～ 午後5時	午後0時40分 ～ 午後1時10分	午前8時55分～午前9時 午前10時30分～午前10時40分 午後3時20分～午後3時35分
			土曜日 午前8時30分 ～ 午後0時30分		午前8時55分～午前9時 午前10時30分～午後10時40分
教育学部附属幼稚園 の教員	52週間	日曜日並びに毎月の 第二土曜日及び夏季 ・冬季等の休業期間 中に当該部局長が指 定する10日以上の一 勤務日	月曜日から金曜日まで 午前8時30分 ～ 午後5時	午後0時30分 ～ 午後1時	午前10時15分～午前10時30分 午後1時～午後1時15分
			土曜日 午前8時30分 ～ 午後0時30分		午前10時15分～午前10時30分
教育学部附属学校に 勤務する職員のうち、 授業等に関連する業 務に従事する職員で 当該部局長が指定す る者	4週間	A 日曜日及び土曜日 B 日曜日並びに毎月の 第二土曜日及び当該 部局長が指定する2 の土曜日 又は 日曜日及び当該部局 長が指定する3の土 曜日	月曜日から金曜日まで 午前8時30分 ～ 午後5時	午後0時15分 ～ 午後0時45分	午後0時～午後0時15分 午後0時45分～午後1時
			月曜日から金曜日 の1の半 日勤務日		午後0時15分 ～ 午後0時45分
			土曜日 午前8時30分 ～ 午後0時30分	午後0時15分 ～ 午後0時45分	午後0時～午後0時15分
			土曜日 午前8時30分 ～ 午後0時30分	午後1時 ～ 午後5時	午後3時～午後3時15分
			土曜日 午前8時30分 ～ 午後0時30分		午前10時～午前10時15分
学生部に勤務する職 員のうち、寄宿舎の 調理に関する業務に 従事する職員で当該 部局長が指定する者	4週間	当該部局長が指定す る8の1日勤務日	午前8時30分 ～ 午後5時	午後0時30分 ～ 午後1時	午前10時30分～午前10時45分 午後2時45分～午後3時

富山大学の入学式及び学位記等授与式の開催日についての申合せ

富山大学の入学式及び卒業証書授与式の開催日についての申合せの改正理由

平成3年度第11回評議会（平成4年1月17日（金）開催）の議に基づき、「富山大学卒業証書、修了証書並びに修士学位記授与式」を「富山大学学位記及び修了証書授与式」に変更したこと、及び完全週休二日制の施行により、平成4年5月から土曜日を閉庁とすることに伴い、所要事項を改める。

富山大学の入学式及び学位記等授与式の開催日についての申合せ

平成4年6月26日
評議会決定

富山大学の入学式及び学位記（修了証書）授与式の開催日は、毎年度次のとおりとする。

- 1 入学式は、4月10日とする。ただし、その日が日曜日又は土曜日となる場合は、その翌日又は翌々日の月曜日とする。
- 2 学位記等授与式は、3月25日とする。ただし、その日が日曜日又は土曜日となる場合は、その前々日又は前日の金曜日とする。

富山地域リカレント教育推進事業富山大学運営委員会要項

富山地域リカレント教育推進事業富山大学運営委員会要項の制定理由

文部省から、富山県教育委員会富山県生涯学習カレッジが代表機関として、富山地域におけるリカレント教育推進事業が委嘱されたことに伴い、富山地域リカレント教育推進協議会が設置された。

同協議会から、本学に対して事業の委託が行われ、その事業の円滑な促進と実施を図るため富山地域リカレント教育推進事業富山大学運営委員会を設置し、所要事項を定める。

富山地域リカレント教育推進事業富山大学運営委員会要項

(設 置)

第1条 富山大学に富山地域リカレント教育推進協議会からの委託事業の円滑な運営を図るため、富山地域リカレント教育推進事業富山大学運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組 織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 各学部長及び教養部長
- (3) 附属図書館長
- (4) 学生部長
- (5) 事務局長
- (6) その他学長が適任と認めた者

2 前項第6号の委員は、学長が委嘱する。

(任 期)

第3条 前条第1項第6号の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任

の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を行う。

(幹 事)

第5条 委員会に幹事を置き庶務部長、経理部長及び学生部次長をもって充てる。

(庶 務)

第6条 委員会の庶務は、庶務部庶務課において処理する。

(雑 則)

第7条 委員会の経理事務手続については、経理部長が別に定める。

附 則

この要項は、平成4年6月9日から実施する。

夏の省エネルギーに協力を！

石油、天然ガスなどのエネルギー資源は、地球の貴重な財産です。

資源の無駄使いは、地球の温暖化など地球環境の悪化を招く原因ともなります。

日頃からエネルギーを効率的に使用し、地球にやさしい環境作りに心掛けましょう。

- 室温は28℃を目途とする。
- 不用時のこまめな消灯を励行する。
- 不要不急のOA機器等の電源はこまめに切る。
- ガス・水道の節約に努める。
- マイカーの経済運転、大量交通機関等の利用を心掛ける。

海外渡航者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	理学部	助教授	安田 祐介	アメリカ合衆国	第66回コロイドと表面科学シンポジウムに出席 他	4. 6. 11) 4. 7. 13
	理学部	助手	酒井 英男	ロシア共和国	研究打合せ、水質及び底質資料採取のため	4. 6. 17) 4. 7. 1
	教養部	教授	藤井 昭二	ロシア共和国	バイカル湖の水質及び底質試料採取	4. 6. 17) 4. 7. 8
	工学部	助教授	松木 賢司	ノルウェー オランダ	第3回アルミニウム合金国際会議に出席 他	4. 6. 19) 4. 7. 2
	〃	文部技官	松田 健二	ノルウェー	第3回アルミニウム合金国際会議に出席、研究発表	4. 6. 19) 4. 6. 29
	〃	教授	宮下 和雄	イタリア	第14回液晶国際会議に出席	4. 6. 19) 4. 6. 28
	〃	〃	女川 博義	〃	〃	〃
	経済学部	教授	藤森 英男	大韓民国	合繊維物産地での産業調整援助政策実態調査	4. 6. 20) 4. 6. 29
	工学部	助手	佐々木基文	フランス スイス	制御と信号処理における適応システムに関する国際シンポジウムに出席及び研究発表 他	4. 6. 27) 4. 7. 9
	理学部	教授	松浦 郁也	オランダ ハンガリー	第10回国際触媒学会に出席 他	4. 6. 28) 4. 7. 27
海外研修	経済学部	助教授	岩崎 政明	ドイツ イギリス	「日本・ECにおける多国籍企業課税」会議に出席 他	4. 6. 12) 4. 6. 25
	教育学部	助教授	西川 友之	マレーシア インドネシア	バレーボール審判技術研修 他	4. 6. 12) 4. 6. 22
	理学部	助教授	平山 実	スペイン	物理学における群論的方法に関する第19回国際コロキウムに出席	4. 6. 25) 4. 7. 7
	教育学部	助教授	室橋 春光	アメリカ合衆国	学習障害児教育施設・指導法の調査・研究	4. 6. 27) 4. 7. 8

職 員 消 息

《新任者住所》

教養部

文部事務官 森 慶子
(教務係)

《住所変更》

教養学部

教授 松川三郎
(被服学)

附属図書館

事務補佐員 柴田紀子
(閲覧係)

教養部

文部事務官 寺脇誠一
(会計主任)

《改 姓》

教養部

文部事務官 寺脇誠一(旧姓:下田)
(会計主任)

平成4年度 『防災週間』

平成4年8月30日(日)～9月5日(土)

我が国は、その自然的・社会的条件から、台風、豪雨、豪雪、地震及び大規模火災等により災害に見舞われてきています。このため、常日頃から災害を未然に防止するよう、災害に対する備えを充実強化していきましょう。

主 要 行 事

本 部

- 6月 1日 平成4年度永年勤続者表彰
国立大学入学者選抜連絡協議会第13回大会（於：神戸国際会議場）
- 1～3日 平成4年度国立大学施設担当課長会議（於：東京医科歯科大学）
- 3日 平成4年度国立大学学生部次長・課長、国立高等専門学校課長会議（於：東京医科歯科大学）
- 4～5日 国立学校及び施設等機関等庶務部課長会議（於：東京医科歯科大学）
平成4年度国立大学国際交流担当課長等会議（於：東京医科歯科大学）
- 5日 第2回留学生部会
第7回評議会幹事会
- 8日 第1回国際交流委員会
平成4年度学生教育研究災害傷害保険説明会（於：名古屋通信会館）
第1回学園ニュース編集委員会
- 9日 第4回評議会
第2回部局長懇談会
第8回評議会幹事会
平成4年度大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会（於：京都産業会館）
- 16～17日 国立大学協会第90回総会（於：学士会館）
- 17日 第2回事務協議会
- 17～18日 国立大学長会議（於：学士会館）
- 18日 第3回留学生部会
- 19日 国立大学協会第57回事務連絡会議（於：学士会館）
庶務係長会議
低温液化室講演会
- 23日 平成5年度概算要求説明（於：名古屋工事事務所）
第2回入学試験実施委員会
第2回入学試験委員会
- 24日 平成4年度北陸地区国立学校事務電算化協議会（於：金沢大学）
部課長会議

- 25日 平成4年度国立大学入試担当課長連絡協議会（於：新潟東映ホテル）
- 26日 第5回評議会
第3回部局長懇談会
第9回評議会幹事会
第42回北陸三県大学学生交歓芸術祭運営協議会（於：福井大学）
X線直接撮影
- 29日 第1回廃液処理施設運営委員会
第2回学務関係係長会議
- 30日 中部地区安全対策会議（於：人事院中部事務局）

人 文 学 部

- 6月 1日 特別昇給委員会
- 2日 学部将来計画委員会と予算委員会の合同委員会
- 3日 学部教務委員会
教授会
- 15日 学術講演会（米国テキサスA & M大学文学部長ダニエル・ファロン教授）
- 17日 紀要委員会
- 24日 教授会

教 育 学 部

- 6月 1日 拡大学部将来計画委員会
- 3日 教授会
- 3～4日 日本教育大学協会北陸地区会美術部門研究協議会（於：福井大学）
- 4日 附属幼稚園保育研究会
- 8日 教授会
- 9日 入学者選抜方法検討委員会
大学院設置準備委員会
平成4年度特殊教育就学奨励費交付金事務担当者会議（於：国立教育会館）
- 10日 学部教務委員会
人事教授会
教授会

11～12日 全国国立大学教員養成学部事務長協議会
(於：大阪教育大学)

12日 日本教育大学協会評議員会
(於：KKR東京竹橋)

15日 富山大学教務委員会教職科目専門委員会

17日 人事教授会

19日 附属中学校教育研究協議会

22日 学部予算委員会

25日 教育実習委員会

経 済 学 部

6月 2日 大学院経済学研究科委員会小委員会

3日 日本海経済研究所運営委員会
大学院経済学研究科委員会
教授会
経済学部長候補者選挙選挙管理委員会

10日 各種委員選考委員会

12日 学部案内作成委員会

15日 夜間主コース運営委員会

16日 学部教務委員会(持ち回り)

17日 教授会

18日 学部補導委員会

24日 学部案内作成委員会
学部施設整備委員会
係長会議

25日 学部補導委員会

26日 学部補導委員会

29日 係長会議
学部教育改善検討委員会
学部補導委員会

理 学 部

6月 5日 教育改革問題等検討委員会、学科主任会
議

10日 教授会
理学研究科委員会
人事教授会

15日 教育改革問題等検討委員会

25日 ガラス工作室運営委員会

工 学 部

6月 2日 学部運営委員会

4日 学部入学試験検討委員会

5日 学部概要編集委員会

8日 学部教務委員会
係長連絡会

10日 教授会
工学研究科委員会
専任教授会

11日 学部図書委員会

15日 博士課程設置準備委員会

16日 学部概要編集委員会

18～19日 北陸信越地区工業教育協会総会
(於：新潟大学)
北陸信越地区工学部長懇談会
(於：新潟大学)

19日 学部拡大教務委員会

22日 学部補導委員会

30～1日 第30回中部圏国立大学工学部事務協議会
(於：新潟大学)

教 養 部

6月 1日 教授会

5日 教授会

8日 補導委員会

10日 教授会

12日 内地・在外研究員に関する委員会

17日 推薦委員会
CL教室運営委員会
視聴覚教育委員会

24日 人事教授会

附 属 図 書 館

6月

25～26日 第39回国立大学図書館協議会総会
(於：帯広市民文化ホール)

30日 係長連絡会

地域共同研究センター

- 6月 1日 ハイテクゼミナールエレクトロニクスコース（7月27日まで）
2日 ハイテクゼミナールメカトロコース（7月28日まで）
9日 第1回大学院生教育講座
23日 文部省関係者視察
24日 福井大学関係者視察

保健管理センター

- 6月 18日 第1回健康の集い
24日 X線直接撮影

編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あけぼの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電話 (24) 1755(代)